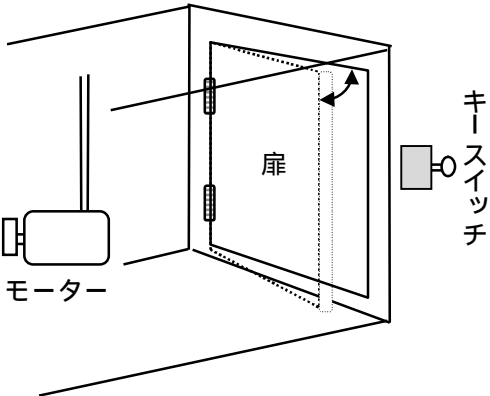
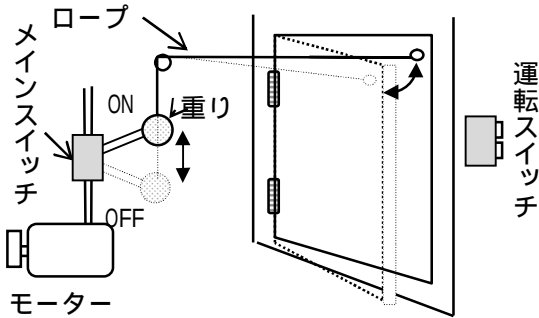


タイトル	重力による電源の自動遮断スイッチ	区 分	- A -
		No .	1
従来のシステム			
〔図〕 		〔作動状況説明〕 可動部のモーター部分（危険領域）は柵等で囲われている。囲いの中に入って作業をする時は、囲いの外側に設置されているモーターのキースイッチを切り、キーを所有して入ることを標準化している。	
〔危険要因、問題点〕 キースイッチを切らずに囲いの中に入って作業をしている時、他の者が中に人がいることを知らずにモーターを駆動させると怪我をする可能性がある。		〔事故事例〕 これと同様な作業における事故事例は多数ある。	

タイトル	重力による電源の自動遮断スイッチ	区 分	- A -
		No .	1
「安全確認型」システム			
〔安全の保証条件、保証の仕方〕 運転開始時には危険領域の入り口扉が閉まっていることを保証するため、扉を完全に閉めないとモーター駆動用のメインスイッチが入らないようにする。（入り口扉を少しでも開くとモーター駆動用のメインスイッチがスイッチ操作部に取り付けられ重りのために自動的に切れる。）			
〔方式、手段〕 力を加えない状態では重力（又はバネ）の力により自動的に電源を遮断してしまうスイッチと入り口扉をロープで結び、扉を閉めた状態でスイッチがONするように調節する。			
〔図〕 		〔安全対策の説明〕 1. モーター駆動用のメインスイッチは、上下にセットした時手動操作部にセットされた重りのため常時OFFの状態になるものを使用する。 2. 危険領域（モーター稼動領域）入り口の扉は内側（危険領域側）に開くようにする。 3. 危険領域入り口の扉とメインスイッチの手動操作部をロープで結び、扉を閉めた時にスイッチがONになるようにする。 （扉を内側に少しでも開けると重りのついたメインスイッチが切れる） 注）“しくみ”に使用するスイッチはメインスイッチとし、モーターを直接駆動するためのスイッチ（運転スイッチ）を用いないこと。（運転開始は扉を閉じた後、囲いの外側に設置された運転スイッチをONすることで行うようにすること）	
〔残存リスク〕 1. ロープが滑車等の吊下げ部で引っ掛かる（あるいは故意に引っ掛ける）と入り口扉が開いてもメインスイッチがOFFにならない。 対策：スイッチと扉の距離をできるだけ短くして引っ掛かる部分をなくするとともに故意にスイッチをON出来ないような位置に取り付ける（又はカバー等でいたずらが出来ないようにする）			